

日本生薬学会会員海外派遣助成事業 (B-2)
海外で開催される国際研究集会への参加 [成果報告書] (抜粋)

1. 派遣者

所属 星薬科大学大学院薬学研究科 職名 博士後期課程2年 氏名 石川和樹

2. 研究集会名

(欧文名) The 114th General Meeting American of the Society for Microbiology

(訳文名) 第114回アメリカ微生物学会総会

3. 派遣期間

2014年5月16日 ~ 2014年5月21日 (6日間)

4. 国際研究集会の概要とその成果 (併せて600字~800字で記載下さい。)

(概要) General Meeting American of the Society for Microbiology は、世界中の研究者が集う微生物分野で最大規模の国際学会であり、本年はアメリカのボストンで5月17日から20日の4日間開催された。期間中は27分野で88のシンポジウムと2800以上のポスター、21のワークショップが開催され、協賛企業も40社以上で、企業によるセミナーや機器展示会も行われていた。本大会では、大会専用のスマートフォン用アプリや、講演データ管理用プログラムなどが準備されており、また、ポスター発表者には発表者の連絡先や要旨などが記載されたカードが無料で配布され、名刺代わりに使用することで研究者同士の交流を促進させる等の工夫も行われていた。

(成果) 大会2日目の午前に「Isolation and Characterization of Berberine Utilization Bacterium *Rhodococcus* sp. BD7100」という研究題目でポスター発表を行った。生薬成分である berberine の資化菌の分離とその性状や代謝物についての発表を行った。発表中には、ポスターの説明を求められたり、様々な助言を頂くことが出来、非常に有意義な発表となった。しかし、自身の英語力不足が原因で研究内容の細かな部分を十二分に説明が出来たとは思えなかった。本研究における今後の課題を認識すると同時に、語学の勉強の重要性も実感することが出来た。また、日本と海外の学会の違いも実感することが出来た。例えば、口頭発表ではスライドを「見せる」発表というよりも、発表者自身が「話す」ことを中心としてスライドが発表の補助として使用されており、口頭発表でのトークの大切さを実感することが出来た。会場の雰囲気も日本よりも明るく、発表者と聴いている人間の距離が近く感じた。また、スライドの最後にポスドクなどの求人載せるとするのは日本ではあまり見たことがなかったので新鮮に感じた。

5. キーワード (本研究成果のキーワードを最大6つお書き下さい。)

① Berberine ② 資化菌 ③ *Rhodococcus* ④ 微生物代謝

6. 本会からの助成に対する意見・希望等

学生が海外での国際学会に参加するのに交通費などの金銭面の問題がどうしても大きな問題となる。そのためこのような助成金の存在はとても有り難く感じた。この有益な制度をより多くの方に利用してもらうために、もう少し積極的にアピールしても良いのではないかと思う。

最後に、このような貴重な機会を与えてくださった生薬学会の方々に深く感謝申し上げます。